

水稻生育情報 No.5

発行日：令和8年7月17日
県央農林事務所 経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
TEL: 029-227-1521

適期の追肥と適正な水管理、カメムシ防除を実施しましょう

[生育概況]

管内の「コシヒカリ」定点圃場は平年に比べて草丈は茨城町でやや短く、その他の地点では平年並である。茎数は水戸市、茨城町で平年より多く、小美玉市、那珂市で平年並である。葉色は水戸市で平年並、小美玉市、那珂市で平年よりやや淡く、茨城町で淡い。

予測出穂期は、水戸市で平年より1日遅く、その他の地点では平年より1～2日早い。気象庁によると、向こう2週間の日平均気温は平年並～かなり高いと予想され(7月13日11時発表)、出穂期がさらに早まる可能性がある。

「コシヒカリ」定点調査圃場の生育状況(7月8、10日調査)

調査地点	年度	移植日 (月/日)	移植日から 調査日までの 日数	栽植密度 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	茎数 (本/株)	葉色 (カラー スケール)	予測 出穂期 (月/日)
水戸市 坏大野	R8	5/5	66日	50.3	73.5	625.8	41.4	3.3	7月29日
	平年値	5/4	67日	51.3	76.6	514.3	33.4	3.4	7月28日
茨城町 上石崎	R8	5/2	67日	63.3	71.7	536.7	28.2	3.0	7月27日
	平年値	5/6	63日	53.1	79.2	414.8	26.0	3.5	7月28日
小美玉市 上玉里	R8	5/15	54日	52.9	74.5	446.8	28.1	3.9	8月4日
	平年値	5/22	47日	55.3	72.0	425.2	25.6	4.2	8月6日
那珂市 鹿島	R8	5/19	52日	52.6	64.3	394.9	25.0	3.2	8月6日
	平年値	5/26	45日	52.6	63.6	433.8	27.5	3.5	8月8日

[今後の栽培管理]

1 穂肥の適正施用

品種	コシヒカリ	ふくまる	にじのきらめき
穂肥時期	出穂前15日頃(幼穂長30mm)	出穂前18日頃(幼穂長5～10mm)	出穂前25～15日頃(幼穂長1～30mm)
穂肥施用量	窒素成分量で1～2kg/10a	窒素成分量で最大3kg/10aまで	窒素成分量で3kg/10aを目安
備考	出穂前20日(幼穂長4～10mm)の時点で草丈80cm以上、葉色4を超える場合は、倒伏の恐れがあるため穂肥を控える。	出穂前20日頃に、葉色4.5を超える場合には、倒伏の恐れがあるため穂肥を控える。	耐冷性が弱いいため、穂ばらみ期(出穂14～7日前)に低温が予想される場合は10cmの深水管理とする。

2 高温対策として、葉色が淡い時(目安として葉色3.2以下)は実肥を施用しましょう。

近年の高温の影響により、出穂期の葉色が淡い傾向があります。葉色が淡くなりすぎると、白未熟粒などの発生を助長することから、出穂期頃の葉色が淡いと予想される場合には、出穂前2日頃に窒素で1kg/10a程度の実肥を行いましょう。

幼穂形成期以降は、稲が最も水を必要とする時期です。稲に水分を十分に与えながら土壌中に酸素を供給するため、間断かんがいを行います。出穂までは、3～4日程度湛水し、落水状態で1～2日程度保つサイクルを繰り返します。登熟期に田面を乾かしすぎると乳白粒や胴割粒が増加することから、出穂以降は、湛水の継続日数を2～3日とし、落水後は田面が乾く前に入水します。
間断かんがいの終了時期は、出穂期から 30 日以降です。



出穂期※～登熟初期にイネカメムシやクモヘリカメムシによって稲穂を集中的に吸汁加害されると、著しい不稔被害が発生することがあります。周辺水田と出穂期が異なる圃場では、集中的に被害を受けることがあるので特に注意が必要です。これらの斑点米カメムシ類の発生が多い地域では、不稔被害の軽減を目的とした防除を出穂期～穂揃期に行いましょう。

乳熟期以降に斑点米カメムシ類の密度が高いと斑点米の発生量が多くなります。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期（出穂期 10～15 日後）に行いましょう。斑点米カメムシ類の発生状況によっては、出穂期※～登熟初期と乳熟期の 2 回の防除が必要です。圃場をよく観察し、斑点米カメムシ類の発生動向に注意しましょう。なお防除の際には、農薬の収穫前日数や使用回数及び周辺作物（特に早生品種を作付している水田）への飛散に注意してください。

※出穂期：圃場全体の40～50%が出穂した日

次回の水稻生育情報は8月中～下旬に発表予定です